

第71回日本PTA全国研究大会広島大会 参加報告書

富士市PTA連絡協議会（副会長） 橋本 仁

【第71回日本PTA全国研究大会広島大会】に、参加させていただきました。

下記にご報告をします。

1. 概要

☆ 大会スローガン：変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！

～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで！！～広島から全国へ

1) 分科会

実施日時：令和5年8月25日（金）12時～17時

参加分科会：第6分科会（テーマ：防災教育）

研究課題：予期せぬ災害から大切な命を守るために ～今、できること・考えておくべきこと～

会場：呉阪急ホテル（呉市）

2) 全体会

実施日時：令和5年8月26日（土）9時～12時30分

会場：広島県立総合体育館 広島グリーンアリーナ

2. 補足

1) 分科会

－1 次第：①開会行事→②基調講演→③実践発表・パネルディスカッション→④閉会行事

－2 基調講演（テーマ）：【学校で学ぶ知恵は、すべて防災に役立つ

-親子で楽しく身につけ、地域を安全にする方法-】

（講演者）：【あんどうりす】氏（アウトドア防災ガイド）

－3 実践発表：三原市本郷中学校区（個人情報のため、記載せず）

－4 パネルディスカッション：コーディネーター・パネリスト

（個人情報のため、記載せず）

2) 全体会

－1 次第：①歓迎アトラクション→②開会行事→③記念講演→④閉会行事

－2 歓迎アトラクション：【広島ジュニアマリンバアンサンブル】

－3 記念講演（演題）：【心のトリセツ～「逃げ癖」を「意欲」に変える脳科学から～】

（講師）：【黒川 伊保子（くろかわ いほこ）】氏（㈱感性リサーチ 代表取締役）

3. 所感

ー 1 分科会 (参照: 第 6 分科会資料 (あんどうりす氏提供))

- ・基調講演は、アウトドア防災・赤ちゃん防災等を発信し続けている『あんどうりす』氏。
- ・普段から役立つ情報(ヘッドランプ・防水バッグ・持ち出し袋の重要性やカバンを軽く持つテク等)をYahoo・YouTube等でも発信するとともに、講演活動にも活躍の幅を広げている。
- ・今回は3つのことを教えていただいた。
 - ① 子どもに伝えたい知恵の備え
 - ② PTAができること
 - ③ 想定外に対して自分で判断して行動できる=生きる力について
- ・昨年度、静岡市清水区等で台風により断水が発生したが、その際に活躍した『WOTA(水循環型システム等)』や南海トラフ地震等で震度6強~7が発生した場合の対処方法(避難時はブロック塀が倒壊する危険性があるので、注意する)を紹介していただいた。
- ・ある自治体ではブロック塀撤去費用の9割が自治体・1割が本人負担となっているが、本人負担分をPTAが負担することで、危険なブロック塀を積極的に撤去しているとのこと。(上限額はあり)
- ・ブロックが地震で液状化して勝手に壊れるなんていう、子どもの発想もあって面白い。
- ・家具の固定は、地震対策でもあるが水害対策としても有効であること。家具が浮いてしまうと思うように動けない・挟まれてしまう等のリスクとなる。
- ・長野県佐久医師会と共同でアプリ『教えてドクター』を開発し、現在に即した情報発信が出来ている。例えば鼻血の止め方の昔と今では違う。(昔はトントン首の後ろを叩いたり…)
- ・東京都では大地震等の災害時は『帰らない』という選択が推奨されており、群衆雪崩や交通網マヒの恐れを極力抑えるような取り組みに変わっている。
- ・東日本大震災を例に、災害時の子どものお迎えも一長一短あり。実際に被災して亡くなった場合もあるので、まずは安全確保を念頭に慎重に行動することが求められている。
- ・富士市付近でも地震・津波・富士山噴火等を想定し、避難計画が策定されている。
- ・日P推奨のスマートタグも紹介されたので、被災時はもちろん普段でも有効なので購入を検討する。
- ・常に携帯トイレを準備することの重要性…災害用(簡易)トイレキットは自宅で準備しているが、災害後4時間以内に必ず必要(困ること)になるので、常に持っていることが望ましい。
→普段から持っている方は会場でも少数でしたが、男女問わず必要(トイレは使えないと思え)。
- ・東日本大震災等の経験から、マイ・タイムラインを作成しておくこと。広島県のマイ・タイムラインを紹介。
 - ・富士市HPにもマイ・タイムラインがあることを確認済み。家族内での確認をおススメする。
 - ・水害時にはニュースで見かけるように『水の中を歩く気満々問題』があり、いろいろな情報でも分かるように大変危険であり無理なことが多い(側溝や川に流される可能性もあり)。
 - ・セオリーは、避難は浸水前に安全な状態で行うこと。
 - ・水難時は飛びこんで助けるのがカッコいいかも知れないが、最も危険度が高い救助法なので、その場で何とかする方法ではなく、『事前に知識と装備を備える』→防災も同じこと
 - ・やや駆け足気味の講演でしたが、資料をダウンロードして有効利用出来ることもあり、話の内容も普段から役立つことが多く、大変有益な情報が盛りだくさんの講演でした。
- ・今後もアンテナを張り巡らせて、命を守るためにも情報収集が欠かせないと改めて感じた次第です。

- ・実践発表は、『Pパッと T楽しく A遊ぼうよ～未曾有の大災害、PTAのきずなが生んだ転校生ゼロの奇跡～』のテーマで、広島県三原市本郷中学校区での取り組み。
- ・発表者は元中学校の校長先生（R5年3月まで）。被災時は同中教頭&市P連事務局長。
- ・平成30年、西日本豪雨により同中学校区は三原市で最も大規模な浸水被害が発生し、当時在籍していた222名の1/4強が実際に被災・避難生活を余儀なくされ、さらに1/10強の家庭が全半壊または大規模半壊、制服をはじめとする学用品のほぼ全てを失った生徒が30名、賃貸住居者のほとんどが学区外へと避難と多くの家庭が校区外で生活を再建し多くの生徒が転校を余儀なくされると思われました。中学校自体はギリギリ浸水を免れたものの、学校再開に展望が持てない状況でした。
- ・実際、多数の方が転校も含め検討されましたが、結果的に転出した生徒はゼロ。PTA活動等を通じた人間関係とPTAを中心とする迅速な支援が生んだ奇跡でした。
- ・本郷中PTA活動のキャッチフレーズ『Pパッと T楽しく A遊ぼうよ』の元、PTA活動は『地域の絆作りの入口。多くの保護者が参加したいと思える楽しいPTA活動にしたい』との理念により作り上げられた絆が未曾有の大災害で力を発揮しました。
- ・当時の具体的な動きとして、被災した2日後には臨時PTA役員会をし、被災者に向けての支援策を含めて動き出しました。（メールや口コミによる支援の呼びかけ）
- ・3日後には、制服等の学用品が山積み。結果的には、家電製品・日用品等々がすぐに集まり、被災した世帯に支援が行き届いたとのことでした。
- ・このようにPTA・地域等で取り組んだことで、『このような地域・学校で子どもたちを育てたい』という保護者が多くなったそうです。
- ・今回の好事例は、PTA活動は『地域の絆作りの入口。多くの保護者が参加したいと思える楽しいPTA活動にしたい』を実践しているからこそその結果だと思えます。
- ・このような環境で育つ子どもたちの能力を伸ばすためにも、PTAとしても協力できるような体制作りが必要になると感じ、コミュニティ・スクールとして地域との横の繋がり・より深い関係性を築いていくことが大切だと思えます。
- ・実践発表の最後には、『Pパッと T楽しく Aアルコール』飲みにケーションだ！とも言い、強制しない適度なコミュニケーションは絶対に必要との言葉で締めくくりました。
- ・パネルディスカッションは、①想定外の災害に備えて、考え準備しておくべきこと②いざという時のため、防災情報や人的ネットワークなど活用する力を育むために③子どもたちを守るため、PTA組織としてどう活動していくべきか。の討議テーマ（視点）に則り行われました。
- ・全国的にPTAという組織が弱体化しつつある中で、いかに無駄な活動をなくしながら子どもたちの安全・安心を確保するのかを考える機会となりました。
- ・学校・地域・PTAで子どもたちを見守り、そしてともに成長や発展できるように、より一層力を発揮していきたい。そんな思いを強くした分科会でした。

－ 2 全体会

- ・まずは、広島ジュニアマリンバアンサンブル（11名）による歓迎アトラクションで開幕！
- ・国内外で披露しているとの説明がありましたが、緊張を感じさせない子どもたちの笑顔が観衆を魅了し、とても素晴らしかったです。
- ・特に、リズムカルかつパワフルでまさに踊っているかのような演奏は、マリンバの魅力はもちろん楽しんでいることが伝わってきました。
- ・子どもたちが（どのようなことでも）打ち込めるような環境を整えるのが、私たちPTAなのだと改めて感じました。
- ・記念講演は、『黒川 伊保子（くろかわ いほこ）』氏で、現在はNHKラジオでもパーソナリティを務めている人工知能（AI）の研究者の先生でした。
- ・先生曰く、『医学』でも『脳科学』ではない『AI』の研究者の立場から『人間の脳』についてお話ししたい。Chat GPTが徐々に脚光を浴び始めているこの時期に、皆さんの前でお話し出来ることは一番良いタイミングだとおっしゃっていました。
- ・まずは『遊』より始めよ（為末 大氏）の言葉を用いて、お話しされました。
- ・『まずは好奇心の赴くままに』が大事。
- ・よくできた型で合理的な指導をすれば「優秀」「一流」までは手っ取り早くたどり着く。但し、その先（超一流）にいけない/スランプから抜け出せず、逃げ出すことに
- ・なぜならば、脳と骨の使い方は一人ひとり違うので、最後は自分自身が向き合って微調整する必要があるから。
- ・また、昔の監督は『怒っている』イメージだが、今の時代とそぐわない。
- ・怒ることで結果や責任で追い詰める→『余計なことを考えずに、がむしゃらに突き進む脳神経回路』を活性化させる一方で『発想力・対話力・長期の戦略力』を阻害してしまう。
- ・20世紀は、優秀な歯車人間を育てれば良かったが、今は違う。
- ・AIが発達することでそれらの役割は変わってくる。
- ・これからの人間にはイ) 命題を探し出すこと。ロ) 脳独自の発想力が重要。
- ・要は発想力・対話力が求められる。
- ・とっさの思考回路には①経緯（プロセス）を反芻して気づきを起こそうとする（過去・未来を見られる人）。②今できること（ゴール）に意識を集中してさっさと動き出す（今しか見られない人）。の2種類があるが、基本の優先側があり立場によって切り替わる。
- ・優先側の異なる二人は鉄壁のペアとなるが、コミュニケーションは最悪となる。
- ・例えば、共働きの夫婦で家事を100のうち98をこなしている人に、①の人は『98出来ていること』②の人は『2出来ていない』ことを問題にする。
- ・①の人は『共感型』・②の人は『問題解決型』と呼ばれ、このままだと会話が成立しない。
- ・その場合、相手に対して①は人間性の欠如を感じ、②は知性の欠如を感じる。（すれ違い・ズレ）
- ・これがコミュニケーション・ストレスの正体であるが、これらは対話を上手くするだけで解消する。
- ・『人の話は共感で聞く』（余裕がある・分かってくれる）・『自分の話は結論から話す』（話が早い・頭がいい）でOK。
- ・とにかく『いいね』『わかる』で受けることが大事。
- ・日本人は相手の意見を否定するとき、主語をつけずに『ダメ』『無理』という言い方をする。暗黙

- の主語は『世間』つまり上から目線の全否定。あるいは『あなたはダメ』というように聞こえる。
(タスクへのダメ出しなのに、相手には人格否定に聞こえる) → 自己肯定感を損ねてしまう。
- ・欧米のビジネストークでは、相手を否定するときも『いいね』で受けることが多い。
『合理的でいいね。でも、僕にはクールすぎるように思える』のように、親子でも『あなたのファイトは買うわ。でも、母さんは心配なの』等、『いいね』受けは、国際標準。
 - ・心理的安全性とは、『なんでもないこと (ちょっとした気づき) をしゃべれる安心感』
 - ・『言うとは嫌な思いをする』と感じて発言を止めると、脳は発想そのものを停止してしまう。
 - ・『頭ごなし』の対話は、相手の発想力と自己肯定感を奪ってしまう。
 - ・そのようなことにならないように、受け手は『いいね』を心がける。
 - ・話し手は、結論から話す。
 - ・例えば、無理な仕事を断る時も、出来ること (結論) から言う。
 - ・その理由は、①共感型の脳は『出来ない事情』が、②問題解決型の脳は『今できること』が浮かぶから。
 - ・①『無理です。今は〇〇で時間が取れなくて…』だが、②『火曜日までには8割方終わらせて経過レポートが書けます。すべて終わらせるには、もう2日要ります』となる。
 - ・どちらの受け答えが好印象か。教える立場や部下等には、②の方をおススメする。
 - ・また、ヒトの『とっさの動作』には4種類あり、驚いた時に①跳びあがる人②肩を上げて固まる人③身構えて固まる人④のけぞる人がいるが、生まれつき決まっていて一生変わらない。
 - ・①②は指先タイプ、③④は手のひらタイプといわれ、指先タイプは力をこめるとき、自然に指先がまとまり、指先に力が集中する。手のひらタイプは、力をこめるときに、自然に指先が広がり、ナックル (マメが出来る場所) に力が集中する。
 - ・ペットボトルから水を飲むときも、指先タイプは手首を使って傾けるが、手のひらタイプはひじを使って傾ける。
 - ・座るときは、前者は腰を屈める→重心が前に出る…スピードが出る。後者はひざを折って腰を落とす→重心が後ろにある…パワーが出る
 - ・その他、縄跳び・逆上がりについての、タイプで動作が違う。
 - ・そもそも『パフォーマンスを出せる所作』が違う。
 - ・指先タイプの剣道の指導者は『躊躇せずに出る』手のひらタイプは、いったん足裏全体に圧をかけて踏ん張らないと前に出られない/出足はわずかに遅れるが、後半の加速がよく打突が強いため遜色ない。
 - ・指導者は弟子の個性を見抜くべき/自分の成功事例を押し付けてはダメ。
 - ・タイプ別で性格も違う。
 - ・指先タイプは先へ先へと気がせく。段取り上手 (せずにはいられない)、勘がよく、何をするにもグッドビギナー (スピーディーでスマート) 最初がうまくいくので、時には世間をなめ、思い込みが激しい/不測の事態にイラつき、投げ出す傾向
 - ・手のひらタイプは、溜めが要る。『溜め』が必要なスロースターター/動き出すのに時間がかかるので、周囲をイラつかせる傾向。但し、飽きない&あきらめない。不測の事態にイラつかず、工夫してふわりと切り抜ける (タフで優しい)
 - ・どうしてもできないこと、何度でも同じ失敗を繰り返すならば、やり方を変えればいい。

・憧れの先輩のようにできなかつたら、必ず『自分にできて、その人にできないこと』がある。それを見つけて、自分の個性を伸ばし、相手に一目置かせればいい。

・本物の大人には、劣等感なんて言葉はない。他者にもそれを適応できるので、他者を見下すこともない。

・失敗を未然に防ぐと、脳はセンスが悪くなる

・脳は寝ている間に回路を書き換える。失敗して痛い想いをすると、その晩に失敗に使った関連回路に信号が行きにくいようにする。失敗すれば『不必要な回路』が分かり、とっさにそこに信号が行かなくなるため、『正しい道』を直感で選べる脳に変わる。勤がよく、センスがよく、発想力・展開力・理解力のある脳は、失敗が作る！

・失敗3カ条

①失敗は他人のせいにはしない。

②過去の失敗をくよくよ思い出さない。

③未来の失敗をぐずぐず言わない。

・失敗した人に欠ける言葉は、『私も〇〇してあげればよかった』

・失敗した人へのフォローにもなるし、自分の失敗だとスイッチが入る。

・記念講演を拝聴して、まずは『いいねで話を受ける』そして自分の言葉は『結論から伝える』。

また、個性（一人ひとり違うこと）を再認識し、上手に付き合う（コミュニケーション）は大事。と字面にすると当たり前のようなことですが、面白く、特に指先タイプ・手のひらタイプのところが興味深かったと感じました。

・今回の内容も含めて有益な情報等を、単位PTAの皆さんに上手にお伝えできるように、自分自身もスキルアップ（成長）をしていきます。

・最後に、来年度の全国研究大会は川崎大会です。

・全国研究大会広島大会以上の熱気に包まれることを期待するとともに、今後も富士市PTA連絡協議会として、単位PTAとしてもモチベーション上げて取り組んでいきたいと強く思いました。

以上